

令和7年度『生活指導の方針』

1 生活指導の目標

- (1)生徒自らが充実した学校生活を送るために必要なきまりとは何かを考え、行動できることを第一に考える。
- (2)教職員のみならず学校運営協議会やPTA、生徒が恩方中学校の生徒の在り方について考え、意見を表明する機会を設けるとともに、よりよい恩方中学校のきまりについて共通理解を図っていく。
- (3)生徒会活動をもり立て、生徒会を中心としてよりよい学校を築こうとする、自主的・実践的態度、自治活動の育成、および平和で活気に満ちた学校を目指す。
- (4)問題が起きた場合や心配な生徒への対応は、担任・学年のみで行うのではなく、全教職員で声を掛け、関わって指導していく。
- (5)いじめ問題や重大事件・事故の際には教育委員会と連携すると共に、地域社会や子育て支援センター、児童相談所ならびに警察などの第三者機関と問題対応にあたっていく。
- (6)教員・学年間の指導差をなくし、生活指導主任を中心とした組織的対応を指導の根幹としていく。
- (7)生徒の心に寄り添った指導を心がけ、生徒との面談や聞き取りを大切にして、生徒理解に努め、より良い信頼関係の中で指導していく。

2 基本姿勢

ここ数年で恩方中学校は落ち着いた状態で学校運営を行っている。しかし、小学校の小規模化の影響もあり、少人数での行動が主体となり、団体行動などを苦手とする生徒も多く、集団生活の中で対人関係に悩む生徒や登校意欲に課題を持つ生徒も一定数在籍しており、対策が急務となっている。また、規範意識に課題を持つ生徒もあり、集団生活のルールを理解するとともに社会の一員としての自覚を持たせていく必要がある。

また、コミュニケーション力の脆弱さから友人関係がこじれいじめに発展するケースがある。自転車通学のマナーの悪さも課題として山積している。一般的な生活指導は大幅に減少したものの、一人一人の特別な支援を必要とする生徒は増加し、個別に対応をする体制が求められている。地域的に素直で何事にも前向きな生徒も多いため、学級活動や生徒会活動、学年行事、学校行事、部活動、地域活動への積極的な参加等により社会性を育みつつ、多様な価値を見出す必要がある。

今年度も生徒の心に寄り添い、問題行動を減少させつつ、多くの生徒たちが安心・安全に学校生活を送れるようにするために、生徒の良い面を伸ばしながら、「自分たちで考えて行動できる学校に」なることを目指していききたい。今年度も生徒自身の声を盛り込んだ「生徒心得」をもとに、決まりを遵守する態度を育てていくことはもちろん、違反をしたり問題行動を起こした生徒に対しても、それだけを捉えるのではなく、原因や理由を把握した上で指導していききたい。場合によってはスクールカウンセラーの指示を仰ぎながら指導していく必要もある。常に生徒との心のふれあいを

大切にし、教職員と生徒、教職員と保護者の信頼関係を築き、生徒の心の内側を理解していく努力を続けていくことが重要になる。

また、生徒自身にも他の人の気持ちが理解できるような指導も必要となっている。人の話に耳を傾けることができるように指導していきたい。

さらに、自転車指導については、学校の通学のみにとどまらず日常生活においても「交通安全教育推進校」として恩方中学校独自の安全教育モデルを構築し、地域の中学生の自転車重大事故ゼロを目指していきたい。

3 重点目標

- ① 全校生徒を対象とした年2回の「QU」を実施し、生徒一人一人の特性や課題に目を向け、居心地の良い学級づくりを目指す。
- ② 週に1回開催するいじめ対策校内委員会では、日頃の生徒観察や生徒間のトラブルなどの事例を報告しいじめの前兆行動をとらえるとともに、年3回の「いじめ関連アンケート」、年3回の「気になる生徒調査」「相談できる大人の有無調査」「いじめ防止プログラム」等の調査結果からいじめの事案について協議し、重大事態に該当するかどうか検討する。
- ③ GIGAスクール構想に鑑み、生徒に情報端末機器の正しい利用法を周知・徹底する。
- ④ 不登校生徒に対しては、不登校対策の研究を生かして不登校対策拠点校として様々なケーススタディを発信するとともに、不登校対応巡回教員を活用しながら「恩方チャレンジ教室」を開設し別室指導のノウハウを構築していく。
- ⑤ 不登校対策や特別支援教育については、スクール・カウンセラーとの連携を通じた校内委員会において個々の生徒の指導の方向性を示し、個票システムを活用しながら組織的対応を行う。
- ⑥ 全校生徒の8割が自転車登校をしている実態を鑑み、通学にとどまらず「交通安全教育推進校」として年間を通じた交通安全教育を充実させるとともに、自転車安全点検や外部と連携したスクエアドストレイトを通じて恩方地区の中学生における自転車重大事故ゼロを目指していく。
- ⑦ 子ども見守りシートを活用し、保護者との情報共有を密にすると共に、生徒へのSOSの出し方に関する教育の取組を通して、自殺防止対策を推進する。
- ⑧ 「生と死の教育」については、保健体育科保健分野の学習において「がん教育」を実施する
- ⑨ 恩方地区8町会ならびに八王子市役所獣害対策課と連携し、登下校に関わる安全指導の一環として「獣害対策」を新たに設けて、恩方地域の獣害に関する知識を深め、獣害防止のための具体的な活動や獣害遭遇時の対処法などを学んでいく。

4 重点指導項目

- (1) 「いじめ対策校内委員会」でいじめ重大事態の未然防止を行う。
- (2) 着席チャイムの徹底（落ち着いた学習環境の整備）
- (3) 気持ちの良い生活環境、学習環境をつくる。（あいさつ、いじめの根絶、美化活動等）
- (4) 正しい態度や身だしなみを身に付けさせる。
- (5) 不登校生徒には「不登校対策拠点校」として組織的に対応する。
- (6) 自転車安全教育を徹底させる。
- (7) 獣害対策教育を推進する。

令和7年度 年間・月間の生活目標 八王子市立恩方中学校

年間生活目標『自分たちで考えて行動できる学校に』

1 学 期	4 月	新しいクラスの友達に進んで話しかけよう。
	5 月	中学生らしい身だしなみを心がけよう。
	6 月	気持ちを引き締め、授業を大切にしよう。
	7 月	1学期の生活を振り返って、良かったことと反省点を整理しよう。
2 学 期	8・9 月	夏休みの生活から気持ちを入れかえ、学校生活のリズムを取り戻そう。
	10 月	朝読書の時間を有効に活用しよう。
	11 月	生活リズムを整え、授業に集中しよう。
	12 月	1・2学期を振り返り、良かったことと反省点を整理しよう。
3 学 期	1 月	冬休みの生活から気持ちを入れかえ、学校生活のリズムを取り戻そう。
	2 月	自分の将来を見つめ、そのために現在どんな努力をすべきか、考えよう。
	3 月	1年間を振り返り、良かったことと反省点を整理しよう。